

ミクロ経済学 II の課題

ミクロ経済学 I では「外部効果のない完全競争市場は効率のよい市場である」ことを学んだ。ミクロ経済学 II では、社会にとって望ましい資源配分の実現を妨げるさまざまな問題が市場経済にもあることを学ぶ。

I. さまざまなタイプの市場

A. 完全競争市場（純粋競争市場）

1. 市場が純粋競争となるための条件
 - a. 集中度が低い
 - b. 製品差別化がない
 - c. 市場情報が全員に行きわたっている
 - d. 参入障壁がない
2. 「純粋競争」と「自由競争」の違い
 - a. 純粋競争は実現し難い理想
 - (1) 純粋競争が社会にもたらす利益
 - (2) 法と規制の必要
 - b. 自由競争の害悪
 - (1) 独占化
 - (2) 闘争と市場秩序の破壊

B. 不完全競争市場

1. 独占市場 monopoly と買手独占市場 monopsony
2. 寡占市場
 - a. 個々の競争者の意思決定と競争相手の意思決定の依存関係
 - b. 共謀の可能性
3. 独占的競争市場
 - a. 多数の競争者
 - b. 製品差別化を通じての独占力

II. 完全競争市場の仕組

A. 需要法則と供給法則

B. 価格調整のメカニズム

1. 均衡価格
2. 均衡の安定性

III. 外部効果のない完全競争市場の効率性 —— 「ミクロ経済学 I」の課題

A. 個別経済主体の意思決定

1. 消費者行動の理論
 - a. 所得成約の下での効用最大化
 - (1) 所得（予算）制約線と無差別曲線を用いる分析
 - (2) 最適条件

消費の限界代替率 = 価格比

b. 所得および価格の変化が需要量におよぼす影響

- (1) 実質所得の変化
- (2) 所得効果と代替効果

2. 生産者行動の理論

a. 技術制約の下での利潤最大化

- (1) 生産関数
- (2) 利潤最大化条件

(a) 技術的限界代替率 = 要素価格比

(b) $\text{限界生産力} = \frac{\text{要素価格}}{\text{生産物価格}}, \quad \text{限界費用} = \text{生産物価格}$

b. 費用関数の分析

- (1) 固定（不変）費用と変動（可変）費用
- (2) 限界費用と平均費用

B. 市場の成果

A. 社会的総余剰

1. 部分均衡分析
2. 生産者余剰と消費者余剰

B. パレートの効率性規準

IV. 市場の効率性への障害 —— 「ミクロ経済学 II」の課題

A. 不完全競争市場の問題

B. 市場の失敗

1. 外部効果
2. 公共財
3. 費用逕減産業

C. ゲーム理論

D. 不確実性とリスク